

# 私の秋田弁ライフ (4)

東京秋工会 副会長  
地主 勝己  
(昭和37年土木科卒)



多摩ニュータウンの造成工事が終わり、昭和49年5月から新宿駅西口駐車場建設工事に配属になりました。京王デパートと明治生命の間の道路下に、地下駐車場を造る工事です。事務所はビルの地下を借り、向かいには北澤酒店の立ち飲み屋がありました。地元対策として夜勤明けには、その店で売れ残ったつまみとビールと酒を買って、ビールは大きな樽に氷を入れ冷やしておいて朝作業員共々一杯のんで帰っても良いことになり、それを楽しみに夜間工事に精を出したものでした。

そんなある月末に所長から「ちょっとお前に話があるから」と言われ所長室に入ると「北澤酒店のサインが一番多いのはおまえだから請求がきたか分かるか?」「分かりません」「92万円の請求がきているが本当に飲んだのか!!」「……飲んだかも知れませんが」「馬鹿やろう!いくら地元対策とはいえ92万も飲む奴がいるか!今度のボーナスは無しだ!」しかしバブル全盛期、本社ボーナスと現場ボーナスをしっかりと頂きました。

下請けが秋田の本荘の連中でしたので「おめたちがしこたま飲むがらでしゃがえだべ、明日がらすこしかげんするべ」と申し合わせたのですが、毎月50万は飲んでいました。

北澤酒店では夜はおばあちゃんが一人で寝て、若夫婦は自宅に帰っていました。夜間工事の騒音、振動がうるさくおばあちゃんが寝られないとの苦情があれば、地元対策で顔の売れている私がなくさめ役となり、おばあちゃんの話し相手となり隣で寝たこともありました。そして、帰りにはウイスキーのだるまを貰い、本当に良いおばあちゃんでした。

京王デパートの污水管切り替え工事の時でした。地下の污水槽に溜まった污水は、3時間毎にポンプで地上に送り污水マンホールに排水されます。その3時間を利用して污水排水管の切り替えを行う事になりました。私と本荘の世話役以下6人で既設のヒューム管を撤去し新しい塩ビ管に切り替え、新しいマンホールに接続するのです。あと一本をつなげば終わるその時でした。ゴーゴーとポンプが回り污水を汲み上げる音が聞こえてきました。

「おー急げ!クソ水が来るぞ!早くさしこめ!」私は大声で言いました「わがった!セーノ!ヨイショ!」その時です。クソ水が先頭にいた私と世話役に降り注いだのです。後ろを見たら作業員は皆逃げ去っていませんでした。とにかくクソ水を被りながらつなぎ一件落着きとなりましたが、口、耳、鼻はクソと紙で塞がれ全身クソまみれで下着と作業服を捨てて、シャワーで体を洗い事務所に戻りました。所長は「地主クソ水をかぶったてが、秋田の田舎で肥溜めに落ちたと思えば軽いもんだべ!」。「はい、こえ

たご担いで転んだと思えばなんでもないです」と強がっていましたが、臭いは一週間消えませんでした。

あの頃は鷹工、大工、鉄筋工、左官工、鍛冶工、ハツリ工等様々な職人が自分の技に自信と誇りを持って仕事をしていました。図面を渡し作業内容を説明すれば、それぞれの勤と経験と度胸(KKD)でお互いが協力し仕事が進みました。親分子分の棲み分けも自然でそれぞれが自分の部下を育てていました。

毎月5日が下請けの給料日でしたので、私も本荘の連中に誘われ新宿西口の通称「しょんべん横丁」、現在は「思い出横丁」に集合し焼き鳥、おでん、モツ煮込みを肴に盛り上がり、他のお客さんも巻き込んで秋田民謡のオンパレードです。秋田おぼこ、本荘追分、生保内節、酒屋唄。特に受けたのはドンパン節と秋田音頭で、何回もアンコールがあり最後の締めが私の秋田長持唄で狭い店中秋田弁でいっぱい、夜中の2時3時まで騒いでいました。次の6日は全休日ですので二日酔いで寝ているのが常習でした。

滝沢とゆう(言う)世話役の下、新潟からの出稼ぎ鷹工7人がいました。彼らは地下の狭い空間で地上の道路を支えていたH鋼杭や切梁をワイヤロープと金車と複胴ウインチを使い、声と手の合図だけで自由自在に操り取り付け撤去していくのです。素晴らしいチームワークと卓越した技能には本当に感激しました。しかし今はこうした技能を持った大工、鉄筋工、左官工はほとんど見当たりません。コンクリートから人へなどと馬鹿なキャッチフレーズの元、土木を担当する者にとって屈辱的な世相に無力感を覚えますが、蛇口をひねれば水が出て、スイッチを入れれば電気がつき、トイレは水洗、新幹線が快適な旅を誘い、高速道路が日本国中に行き渡るなど、インフラ整備に貢献するこれら技能工の身分保障と高賃金こそ若い人達を引き入れる原動力となると思うのですが、現実には夢物語のようです。滝沢は現役を引退し埼玉の息子と暮らしていますが、1年に一度は歌舞伎町で一杯やって昔話を花を咲かせております。

いつも話題になるのは京王デパートの従業員出入り口の覆工板の下で朝の出動時に私と滝沢が寝転び隙間から女性の下着を見て楽しんでいたのですが、あるとき女性と目が合ってしまう「キャー誰か見ている!」と大騒ぎになりデパートから事務所に電話が入り、滝沢の部下がやったことにして難を逃れたのですが、部下の2人にしこたま飲まれた話で盛り上がるのでした。

京王デパートと明治生命の間の路上にツタの絡まった換気塔があります。円錐形を斜めにし、それを更に斜めに切ったユニークなデザインです。この測量と墨出しには苦労しました。大工の世話役とベニヤ板に原寸を引き、それを現場に持ち込み立体的に足場上に組み立てイメージを作り、墨出しをしました。足場を作り鉄筋を組み型枠を組み、コンクリート打ち込み中に計画角度以上に倒れないようにワイヤロープと単管で支え無事完了しました。型枠を外した段階で設計の方が確認に来られるとのことで、現場で待機しました。設計者は「君チョークを持って上がってくれ」とのことでしたので足場の上に登りました。しばらく考えてからボールの上げ下げを指示し「そこを60cmほど上げて」と言われました。今度は下の方で「そこを60cmほど上げて」と言われました。なんと折角打設したコンクリートを上はハツリ、下は継ぎ足せとのご指示でした。苦労して造った物をいとも簡単に壊せの打ち足せのと、のたまわるこの親父は何者ぞとあとで聞いて

てびっくり、かの有名な建築家坂倉順三先生だったのです。上をハツリ、下を継ぎ足してタイルを張り現在の形に仕上げました。

新宿西口にタクシー乗り場がありますが、グルリと大きな円形下がり壁があります。あの測量と墨出しでも苦労しました。西口・南口駐車場とも測量と墨出しは現在と違い全部社員がやりました。

墨壺と差金と水糸で柱や梁を既設の床版に印を付けて、職方に説明し必要な資機材を手配し、本当に忙しく月に休めるのは6日の全休日の他1日あれば良い方でした。指は墨壺の墨で黒く爪の中まで浸透し、飲み屋にいけば手を隠して女の子に見られないようにして飲んでいました。

昭和57年に工事課長になるまで私の仕事は測量でした。その結果平成12年に営業部長から「地主さん、国土館大学の工学部から測量および測量実習の非常勤講師の派遣依頼がきているが、営業上行かないわけにいかないの面接受けてきてよ」といわれました。大手4社にお願いしたらしく、経歴書を持参し教授の前で色々聞かれました。どうせ採用にならないだろうと有る事無い事ホラを吹いて帰りましたら、なんと採用の文書が届いたのです。毎週金曜日の12時50分から5時50分まで、90分3コマの講義のため世田谷にある国土館大学工学部(現 理工学部)土木工学科(現 都市ランドスケープ学科)に通うことになりました。若い頃の測量経験が今になって役立つとは思っても見ませんでした。測量技術の進歩は目覚しくアナログからデジタルへ、光波、GPS、トータルステーションとパソコンの連携と付いていくのが大変でした。測量に関する様々な本、ビデオを買い勉強しました。授業の終わりに学

生が先生の評価をするのですが、概ね評価が高く、評価表を見ては自己満足しています。その間約900名の卒業生に接し、若いエキスを頂きに大学へ行くのが楽しく、講義の半分はダボラのときもあります。

鹿島建設退職後も新しい職場の方々のご理解のもと、講師生活12年目を迎えています。当初は100名いた学生も現在は50名と半減しました。公共事業は悪だ!談合の土木は悪だ!土木は悪人がやる仕事だ!とマスコミに叩かれ、大学から土木科の名前が消え、土木科に学生が来なくなりました。本当に情けなく口惜しい思いです。

学生のコンパに招かれ3000円の会費が3万円支払うことになったり、コンパの席で「君が結婚する時に招待してくれば冷蔵庫ぐらい贈るよ」と冗談で言ったのですが、ある時彼女が学校に来て「先生私結婚します、ご招待状持って来ましたので冷蔵庫お願いします」ときたではありませんか!勿論約束は果し挨拶までさせられました。この3月私の勤めるプロジェクトでサッカー場の入札があり、長永スポーツ工業が落札しました。現場で測量している若い社員がいたので「ご苦労さま大変だね」と声をかけ振り向いた彼をみてビックリ、なんと今年の卒業生の根岸君では有りませんか。「先生なんでここに居るんですか!」。「俺はこの所長で工事を監理してるんだよ」。「ラッキー!本当ですか、まさか先生とこんな所で会うなんて、宜しくお願いします」。作業服がまだぎこちなく一生懸命な姿に「俺の教えた通り丁張り(工事の目印)だせよ、頑張れ!」先生冥利の一こまでした。

非常勤講師も70歳で定年です。あと一年頑張ります。

The technical group which wrestles with the reproduction of natural environments  
Limited Liability Partnership Land Owner Office  
project management group office  
2-23-8 Tsurumaki, Tama-City Tokyo 206-0034, Japan  
japan TEL:+8142-371-3630

自然環境再生にとりくむ技術集団(プロジェクト マネジメント グループ)  
有限責任事業組合 ランドオーナーオフィス  
〒206-0034 東京都多摩市鶴牧2-23-8  
TEL 042-371-3630 FAX 042-371-3687  
理事長 地主 勝己  
(昭和37年 土木科卒)

最上級を知る大人の贅沢  
韓国 No.1 ゴルフ場  
(濟州島)  
特別会員限定ゴルフリゾートのご案内  
「The Club at Nine Bidges」  
ザ・クラブ アット ナインブリッジズ

ジャパンオフィス 株式会社 KM ツーリスト TEL 042-522-0301  
FAX 042-522-0303  
代表取締役 伊藤幹夫 (昭和46年建築科卒)  
〒190-0012 東京都立川市曙町2-9-1 菊屋ビル 3F (JR 立川駅前)  
Email. ito@km-tour.co.jp URL. www.km-tour.co.jp